

比布町複合庁舎建設基本計画

～ みんながつながる、笑顔を育む ～

《概要版》

令和7年10月

序章 現況とこれまでの経緯

1 現施設の状況

現庁舎は昭和 34 年建設された新耐震基準以前の建物であり、平成 22 年の耐震診断では基準値を大きく下回っているため、大規模地震時に倒壊や重大な損傷の可能性が非常に高い状況です。老朽化が進行し、防水機能の劣化、断熱性能不足、暖房・給排水・電気設備の経年劣化により執務環境の悪化と安全面のリスクが生じています。また、行政機能の分散配置による非効率化、バリアフリー化の不足、子育て支援設備の不足、エネルギー効率の低さなど、多方面にわたって問題を抱えています。

2 これまでの経緯と整備の必要性

昭和 34 年に建設された現庁舎は、建築から 65 年以上が経過し、法定耐用年数（減価償却資産）を大幅に超えている状況です。耐震診断に基づく耐震改修工事を実施した場合、事業費が 9 億円以上になることが試算されており、福社会館や消防署の老朽化に対応する費用も考慮すると、町民の利便性やサービスの質的向上のため、また、将来的な維持管理経費の効率化や多様化する行政需要に対応するためにも、新たな複合庁舎の建設が必要です。

第 1 章 新複合庁舎建設の基本的な考え方

1-1 基本方針

比布町複合庁舎建設基本構想で示されている、基本理念 ～みんながつながる、笑顔を育む～ に基づき、誰もが気軽に利用しやすく、多世代がつながる複合庁舎を目指します。防災拠点機能も充実させ、笑顔で安心して暮らせるまちの中核施設とします。

① 町民にとって気軽に利用しやすい複合庁舎

行政機能を一箇所に集約し、すべての利用者に配慮した施設を目指します。窓口機能の集約によるワンストップサービス、プライバシーに配慮した相談室の設置、DX 化の推進、町民が気軽に利用できる交流スペースの配置により、親しまれる複合庁舎を目指します。

② 機能性と経済性の高い複合庁舎

80 年以上の長寿命化を実現する構造の採用、デジタル技術活用と執務スペースのコンパクト化、多目的利用可能な会議室等の適切配置を行います。役場機能、保健センター、消防署、福社会館などを統合した複合施設により、機関連携の強化と運営効率の向上を図ります。

③ 防災拠点施設としての役割を果たす複合庁舎

災害時に住民の安心・安全を守り、行政機能を維持できる強固な防災拠点を目指します。複合施設とすることで防災の連携を高め、非常用電源や防災備蓄倉庫の設置、保健センター機能や福社会館機能などを活用による、地域防災の中核となる施設を目指します。

④ 環境に配慮した複合庁舎

ゼロ・エネルギービル（ZEB）を目標に、木架構の採用や自然採光・換気、LED 照明、高断熱化、地中熱設備の導入により省エネルギー化と維持管理費削減を図り、環境に配慮した持続可能な複合庁舎を目指します。

第2章 新複合庁舎の建設場所

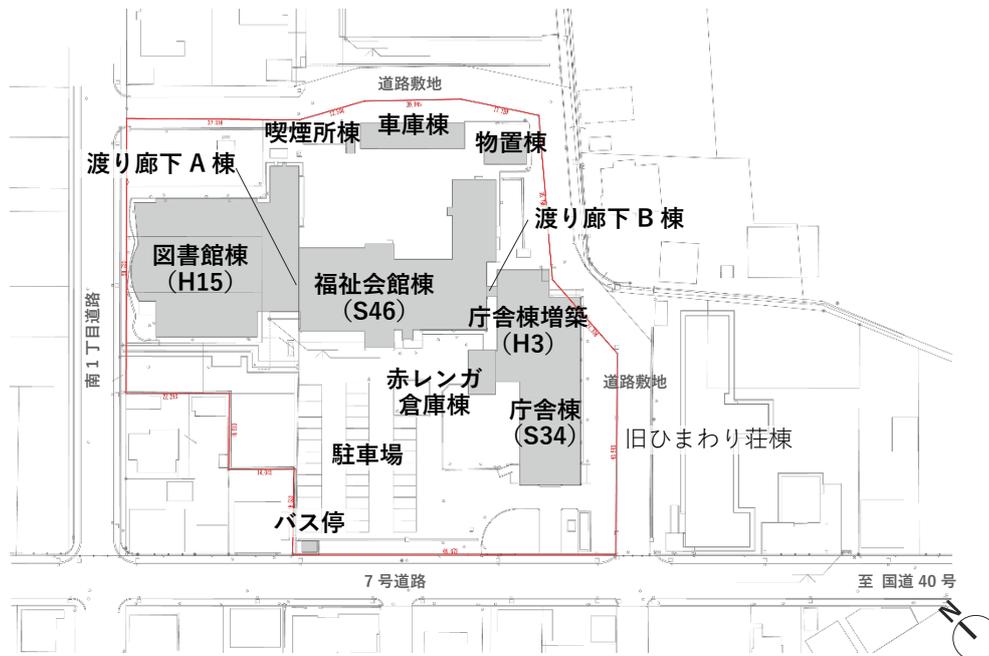
2-1 建設地

新複合庁舎の建設地選定において、経済性に考慮して既存の町有地から検討した結果、公共交通機関の利便性、防災拠点としての中心性、地方自治法の規定を総合的に判断し、現在の役場庁舎敷地を新複合庁舎の建設地として決定しました。



2-2 建設地の状況

新複合庁舎の建設位置は、公共交通機関の利便性が高く、町の中心部に位置し、災害時の防災拠点として適しており、行政サービスを継続しながらスムーズな移転が可能です。



建設地住所：上川郡比布町北町1丁目2番1号
地番：上川郡比布町北町1丁目
487-9,487-59,487-60,487-61,487-692,487-63,487-104,487-287
敷地面積：8,475.82㎡

第3章 新複合庁舎の機能

3-1 庁舎機能

町民サービス向上のため、関連部署を近接させたワンストップサービスを実現し、プライバシーに配慮した相談室と快適な待合スペースを設置します。執務スペースは柔軟なレイアウトで効率化を図り、議場は町民が多目的に利用できる開かれたスペースとします。

3-2 福社会館機能

図書館・福社会館の複合施設として、多世代交流スペースを設け、誰もが気軽に利用できる豊かな生活の拠点を目指します。

3-3 老人センター機能

福社会館機能と統合し、活動継続のための適切なスペースを確保します。これにより様々な世代の町民が交流でき、世代間のつながりを育みながら効率的な施設運用を実現します。

3-4 保健センター機能

複合化により一体的に整備することで、各機能の連携強化を図り、町民の健康増進と福祉を向上する体制を構築します。

3-5 消防機能

新複合庁舎は庁舎機能と消防機能を複合化し、災害時の迅速対応と効率的な施設運用を実現します。フェーズフリーの考え方を採用し、消防用設備の平常時・災害時の兼用や、一般車両と分離した消防車両専用動線の確保により、迅速な出動体制を整備し、効率化を図ります。

3-6 防災・災害拠点機能

災害時に72時間以上機能する非常用発電設備を導入し、町民の安全確保と復旧活動を維持します。また、交流スペースを避難所として活用し、平常時から防災訓練や教育の場とすることで、防災対応力の高い複合施設を目指します。

3-7 セキュリティ機能

新複合庁舎ではセキュリティレベルに応じたゾーニングを実施し、公文書の電子化を推進します。サーバー室にはセキュリティシステムを導入し、町民の個人情報を実際に保護する体制を構築します。

3-8 環境への配慮

「ZEB Ready」相当の建物为目标とし、比布町の気候特性を活かした再生可能エネルギーと省エネルギー手法を組み合わせ、ゼロカーボンシティにふさわしい環境配慮型庁舎を目指します。また、LCA（ライフサイクルアセスメント）の実施によるCO2排出削減や循環型建築のため、既存躯体の活用も検討します。

3-9 維持・管理機能

維持管理コストの低減と設備の長寿命化を図るため、メンテナンスが容易な素材や更新・変更が容易な設備を選択し、柔軟性の高い計画とします。これにより、ライフサイクルコストの最適化と施設価値の維持を実現します。

第4章 新複合庁舎の規模

4-1 各機能の面積

必要面積は、現在の職員数を基に、「総務省地方債同意等基準運用算定」と「国土交通省新営一般庁舎面積算定」を参考に検討します。基本的な庁舎機能に加え、防災拠点、憩いと交流の場としての機能を集約し、町民の利便性と経済性の高い計画とします。

※新庁舎の必要面積は、概ね 3,100 m²程度としますが、今後の基本設計や実施設計での協議、また、情勢の変化などにより、面積の増減については柔軟に対応します。

第5章 新複合庁舎の施設計画

5-1 配置計画

町民利便性、機能の複合化を踏まえ、Cの平屋建て案が総合的に優れていることからC案を選定し、今後の検討を進めることとします。

	A案：2階建て（分棟）	B案：2階建て	C案：平屋建て （消防一部2階建て）
配置図			
概要	1階に庁舎窓口機能や福祉会館機能、2階に庁舎議会機能、保健センター機能を配置し消防機能を含め各機能ごとに分棟配置する計画案	1階に庁舎窓口機能や福祉会館機能、2階に庁舎議会機能、保健センター機能を配置し、消防機能を含め一体的に配置する計画案	1階に消防機能を除き、庁舎機能、福祉会館機能、保健センター機能のすべてを一体的に配置する計画案
利便性・効率性	△：各機能が2フロアに配置されるため、町民の利用時や庁舎職員の執務時に階段やEVにて上下移動を行う必要がある。	△：各機能が2フロアに配置されるため、町民の利用時や庁舎職員の執務時に階段やEVにて上下移動を行う必要がある。	○：各機能が1フロアに配置されるため、町民の利便性や庁舎職員（消防職員を除く）の業務の効率性が高い。
ユニバーサルデザイン・バリアフリー	○：EVの設置により町民が利用するエリアはバリアフリー化が可能。	○：EVの設置により町民が利用するエリアはバリアフリー化が可能。	◎：EVの設置が不要となり、町民が利用するエリアはユニバーサルデザイン化が可能。
共用部・インシヤルコスト	△：2フロアに配置されることで廊下や階段、EV等の共用部分が増えるため、延床面積が大きくなりインシヤルコストがC案と比較し大きくなる。	△：2フロアに配置されることで廊下や階段、EV等の共用部分が増えるため、延床面積が大きくなりインシヤルコストがC案と比較し大きくなる。	○：1フロアに配置されることで廊下等の共用部分が集約されるため、延床面積が小さくなりインシヤルコストがA・B案と比較し小さくなる。

5-2 機能配置計画

既存の図書館機能と福祉会館機能・保健センター機能との連携や消防機能の緊急車両動線を考慮した機能配置にて行い、町民の利便性が高く、確実な防災機能を確保します。



5-3 構造計画

国土交通省基準に基づき最高レベルの耐震性能（構造体Ⅰ類、非構造部材A類、設備甲類）を確保します。架構形式は耐震・免震・制振構造を比較検討し、構造種別は環境配慮型庁舎を目指して、鉄筋コンクリート造や鉄骨造に加え、木造及び既存建物活用の検討も行います。

第6章 事業計画

6-1 事業手法

従来方式・DB（デザインビルド）方式・PFI（Private Finance Initiative）方式・リース方式の4つの手法を比較・検討し、財源の有効活用に加え、設計・施工を一括で行うことで、コスト縮減効果や工期短縮等が期待できることなどから、現段階ではDB方式が有効な手法と判断しました。

6-2 事業スケジュール

令和8年度中の実施設計着手を目指しますが、財政状況を考慮しながら計画的に事業を執行します。

	2025年度 (令和7年)			2026年度 (令和8年)			2027年度 (令和9年)			2028年度 (令和10年)			
	4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6	
設計等				基本設計			DB選定	実施設計					
建設工事										施工			
運用													供用開始

6-3 概算事業費・財源

事業費は町の財政規模や将来負担を考慮し 39 億円程度に設定、町民の憩いと交流の場をメインに、防災拠点、役場機能を集約した利便性と経済性を重視した施設を目指します。財源は地方債の他、環境省の補助金や新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)など有利な財源確保を検討します。

—— 比布町複合庁舎建設基本計画 ——
《概要版》

令和7年10月

発行

比布町

〒078-0392 北海道上川群比布町北町1丁目2番1号

TEL : 0166-85-2111